

モニタリングサイト1000 シギ・チドリ類調査 ニュースレター



環境省自然環境局生物多様性センター / NPO法人バードリサーチ

2012年 冬号

2012年冬期の結果速報

2012年度の冬期調査は、2012年12月1日～2013年2月28日の間で実施され、一斉調査日は、2013年1月13日(日)(大潮)であった。

2012年度冬期の調査では、コアサイト50ヶ所、一般サイト64ヶ所で行われた。一斉調査への参加はコアサイト44ヶ所、一般サイト53ヶ所、計97ヶ所であった。一斉調査は標準日である1月13日に49サイト(50.5%)で実施され、前後2日を含めた5日間では、79サイト(81.4%)の調査が実施され、多くの調査サイトにおいて一斉調査日付近での調査が実施されていた。

昨年と比べてほぼヨコバイ

一斉調査では、コアサイトで33種23,731羽、一般サイトで29種4,638羽、合計35種28,369羽が記録され、ヘラサギ12羽、クロツラヘラサギ171羽、ツクシガモ3,149羽、ズグロカモメ1,970羽が記録された。

最大個体数(調査期間内に記録された個体数の最大値)では、コアサイトで39種43,512羽、一般サイトで33種10,179羽、合計39種53,691羽が記録され(図1)、ヘラサギ27羽、クロツラヘラサギ328羽、ツクシガモ4,710羽、ズグロカモメ3,484羽が記録された。

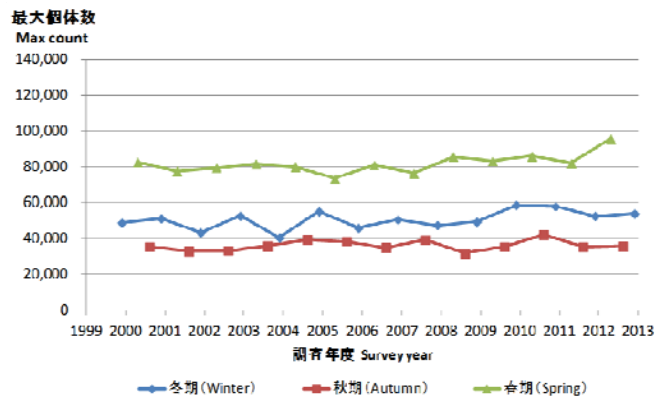


図1. 全サイトの最大個体数合計からヒレアシシギ類を除いた合計の推移。不明種は含まない。

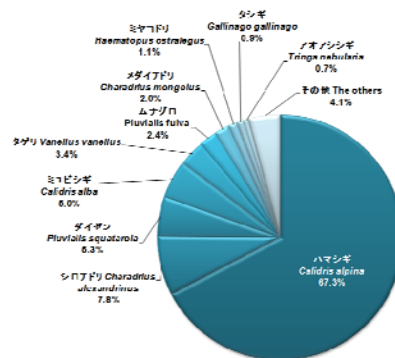


図2. 2013年冬期調査の上位5種。数値は個体数。

例年通り、ハマシギの比率が高い

冬期のシギ・チドリ類の最大個体数データに基づく優占種上位10種とその優占度を図2に示した。冬期のシギ・チドリ類上位10種のうち最大個体数の多かった種は、ハマシギ(67.3%)、シロチドリ(7.8%)、ダイゼン(5.3%)、ミユビシギ(5.0%)、タゲリ(3.4%)の順であった。ハマシギは、越冬期に国内で最も個体数



九州西部のサイトで個体数が多い

が多くなるシギ・チドリ類である。大規模な渡来地の上位10サイトを図3に示す。大授揚、白川河口、荒尾海岸、不知火干潟、氷川、球磨川河口など九州西部の湾内のサイトで個体数が多い。他には、三番瀬(東京湾)、泡瀬干潟(沖縄)、藤前干潟(伊勢湾)などで観察される個体数が多かった。同一湾内では、潮汐によって各サイトで重複してカウントされている可能性がある。

サイト名 (Site name)	最大数 (Max count)
41010 大授揚	6840
43050 白川河口	3870
43010 荒尾海岸	3075
12090 三番瀬	2664
43040 不知火干潟	2549
43070 氷川	2514
23090 藤前干潟	2257
43020 球磨川河口	2005
47070 泡瀬干潟	1334
40020 博多湾東部(和白・多々良)	1328

図3. 2012年冬期の最大個体数。